

アスクリート

アスクリートキットAS(アスファルト用)取扱説明書

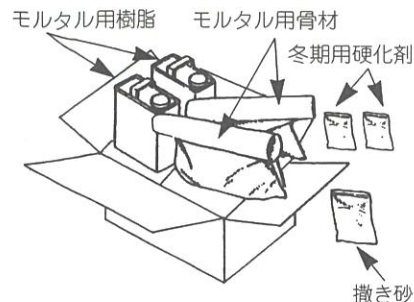
1. 内容品とその用途

モルタル用樹脂：骨材と混ぜて樹脂モルタルを作ります。

モルタル用骨材：樹脂と混ぜて樹脂モルタルを作ります。

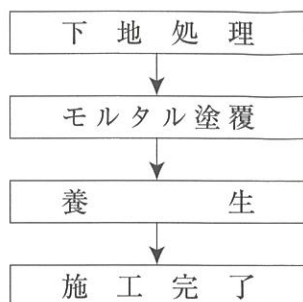
撒き砂：すべり止めのために、硬化前の樹脂モルタル表面に散布します。

冬期用硬化剤：低温時に樹脂モルタルに添加して、硬化時間を早めます。



2. 施工方法

(1) 施工フロー図



注：アスコン下地に打設する場合は、プライマー不要です。しかし、コンクリートや鉄面下地に打設する場合は、別売のプライマー「BK-230」を塗布してください。

(2) 施工方法の説明

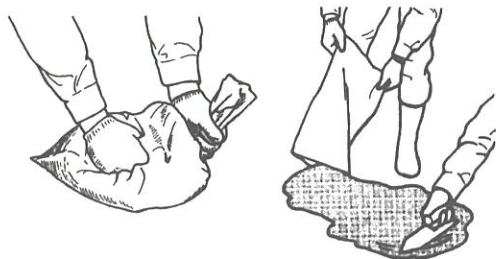
a. 下地処理

アスファルト舗装表面に付着したゴミや油脂分・水分等を除去します。また路面の脆弱部や旧補修材等は下地との一体化の弱点部となり、クラックや剥離の原因となるためハツリ取るなどして完全に除去してください。

下地処理においては、清浄で乾燥した堅固な下地面に仕上げることを目的とします。

b. モルタル塗覆

モルタル用骨材（袋入り）の中へモルタル用樹脂（缶入り）を投入し、骨材袋の口をしっかりとつかみながら袋中で樹脂と骨材を揉みほぐすようにして良く攪拌します。（約1分程度）攪拌完了後、補修箇所にて敷き均します。なお使用量が多い場合には、混練にハンドミキサー、練りダルを使うと効率的です。硬化完了の目安（=交通解放）は、指で押してへこまなくなった時点です。表面にタック（若干のべとつき）が残ることがありますが、性能には問題ありません。モルタルの付着したコテは、市販のラッカーシンナーにて洗浄してください。



(3) 冬期の施工について

外気温が10℃以下の場合に冬期用硬化剤を使用してください。

骨材1袋の中に冬期用硬化剤を1袋投入して、骨材袋を空練りしてから、樹脂を入れてよく攪拌してください。冬期用硬化剤を添加しない場合、硬化が十分に進行しないことがあります。また、気温の高い日に冬期用硬化剤を使用しますと硬化時間が早くなり、可使時間が十分にとれないことがありますので使用条件には十分注意してください。

3. 施工上の注意

－火気について－

モルタル用樹脂は、消防法に定める第4類第1石油類(引火点21℃未満)に属する可燃性液体です。タバコ等の火気には十分注意を払うとともに、熱や直射日光を避けて保管してください。保管場所、施工場所には、常に消火器を用意しておいてください。

－樹脂液について－

モルタル用樹脂に長期にわたって繰り返し接触すると皮膚炎を起こすことがあるので、必ず保護手袋を着用してください。皮膚に付いたときは、布などで拭き取ってから石鹸水でよく洗ってください。揮発分に有害な毒性はありませんが、換気をよくして下さい。目に入った場合は、直ちに清浄な水で15分以上洗浄し医師の診断を受けてください。飲み込んだ場合は、無理に吐き出させず、医師の診断を受けてください。さらに詳しくはSDS(安全データシート)をご覧ください。

樹脂液並びに樹脂モルタルは、硬化時に反応熱で高温となり、また刺激臭の煙が出る場合があります。そのような時には、硬化反応が終わるまで屋外で放置してください。

粘度調整や硬化時間の調整のためにシンナー等で薄めることは絶対にしないでください。硬化不良の原因になります。

－骨材について－

硬化の段階において樹脂モルタルは水分の存在を嫌いますので、骨材は絶対に湿らさないように取り扱ってください。骨材の中に、樹脂を固まらせる硬化剤が添加してあります。他の骨材での代用はできません。

－モルタル塗覆について－

樹脂モルタルの塗覆にあたっては、下地面に樹脂が行き渡るようコテ圧を十分にかけ振動させるようにしてゆっくり敷き均してください。

－下地温度について－

夏場、直射日光の下では路面温度がかなりの高温になります。このような場合、樹脂モルタルの硬化が急速に進行するため、可使時間が極端に短くなり仕上がり状態などの施工性が悪化、また、樹脂モルタルとしての性能も低下するため、シート等で覆うなどして可能なかぎり下地温度を下げて施工してください。(目標温度40℃以下)

－工具の洗浄について－

樹脂モルタルの付着した道具の洗浄は、市販のラッカーシンナーにて行ってください。硬化の前であれば容易に洗浄できます。

コテ等に付着した硬化したモルタルは、一晩ラッカーシンナーに浸しておきますと容易に除去できます。

4. 保管上の注意

アスクリートキットASは、直射日光や雨水のあたらない風通しの良い冷暗所に保管してください。

保管場所には、火気厳禁の表示を行ってください。

